

旅行のプレゼンターになろう！～関係代名詞を利用して～

本単元で育成する資質・能力

情報収集力, 情報活用力, 表現力

日 時 平成 28 年 10 月 31 日 (月) 5 校時 (13 : 00～13 : 50)
 場 所 3 年 A 組 教室
 学年・組 第 3 学年 A 組 (男子 13 名, 女子 13 名, 計 26 名)

単元について

本単元は、学習指導要領（外国語科）の「ウ 読むこと」の指導事項（ウ）「物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。」や「エ 書くこと」の指導事項（オ）「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。」をねらいとした単元であり、新出言語材料としては、関係代名詞（主格・目的格）の who, which, that が導入されている。

4 人の登場人物たちが行う「行きたい国とそこでしたいこと」についてのスピーチが書かれており、彼らのスピーチを通して、様々な国や地域の文化、有名なものなどについて学ぶ。また、関係代名詞の学習を通して、人や物をより詳しく説明する方法を身に付けるとともに、スピーチという場面設定から、聞き手や読み手が理解しやすいように順序立てて自分の意見を述べる力の育成を目指している。

生徒観

本学年の生徒は読むことと書くことにおいて課題が見られる。平成 27 年度標準学力調査においては、下の英文の内容理解に関する問題において、全体の概要を読み取ることに課題があった。

Mr. and Mrs. White wanted a dog. They liked dogs very much. One day in June, Mr. White gave Mrs. White a little dog. His name was Tiny. Mr. White made a small house for him.

Mrs. White said, "Tiny is very small. He will not eat a lot of food." But he did. In August his house was too small for him.

Mr. White made a new house for him. Tiny was happy, but he wanted a new name, too. Why did he want a new name? Do you know? Tiny means little.

次の英語の文章を読んで、{ } の中から、文章の内容に最もよく当てはまるものをそれぞれ 1 つずつ選びなさい。

- (1) タイニーは、
- | | | |
|---|---|--------|
| <ul style="list-style-type: none"> ア 小さくて食べ物をあまり食べない イ 小さいが食べ物をよく食べる ウ 大きくて食べ物をたくさん食べる エ 大きい食べ物をあまりほしがらない | } | 子犬だった。 |
|---|---|--------|
- (2) タイニーは、
- | | | |
|---|---|---------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ア 自分の体が大きくなったので イ 新しい犬小屋に住むようになったので ウ 今の名前にあきたので エ 新しい飼い主と住むようになったので | } | 新しい名前がほしくなった。 |
|---|---|---------------|

(%)

(1)	正答 (イ)	誤答 (ア)	誤答 (ウ)	誤答 (エ)
	38.4	61.6	0.0	0.0
(2)	正答 (ア)	誤答 (イ)	誤答 (ウ)	誤答 (エ)
	53.9	26.9	7.7	11.5

表から分かるように、英文の要点である「子犬の状態」や「結末の理由」を推測する問題の正答率が低かった。(1)の問題では、誤答であるアを選んでいる生徒が約6割いることからホワイト夫人の台詞である“Tiny is very small. He will not eat a lot of food.”の部分のみを読み取り、その後の“**But he did.**”を読み取れていないことが考えられる。また、(2)においては、イヌの名前 Tiny の意味とその大きさとの関係を推測しきれておらず、新しい小屋に住むという事実のみを読み取り答えている誤答が多い。このように英文の要点や概要を把握すること、さらに文字に現れていない部分の推測に課題があることがわかる。

また、書くことにおいては、情報を基に英文を書くことや接続詞や代名詞を用いて、つながりのある文を書くことに課題がある。さらに、ただ情報を英文にするだけでなく、相手に内容が効果的に伝わるようにするためにも順序立てて文章を構成する力も身に付けさせたい。

指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題発見力 ○課題解決力 ○情報収集力 ○情報活用力 ○表現力・コミュニケーション力
- 主体性・積極性 ○自らへの自信

■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒が主体的に読んだり、書いたりできるようにするために、日々の授業において、次の(1)～(4)のことに継続して取り組む。

- (1) 帯時間にはインプット活動(単語・文法)をペアで繰り返し行うことで、基礎的・基本的な知識の定着を図る。また、文法のインプットシートには生徒自身が作成したオリジナル文を取り入れることで、英文を書くことへの意欲を高め、生徒のオリジナル文でインプット量を増やす。
- (2) 本文の内容理解においては、事実を問う発問だけでなく、書かれていることから推測して答える発問も取り入れ、深い読みをさせる。
- (3) 生徒にとって身近な場面や興味を持ちそうな場面を設定することで、課題に対する興味ややる気を出させる。また、少しレベルの高いゴールをパフォーマンス課題として設定することで、達成感を味わわせ、自らへの自信へとつなげる。
- (4) 単元始めに単元終了時に目指す姿(パフォーマンス課題)を伝え、単元を通じてパフォーマンス課題を意識させることで、「どのような学習をしていくのか」「自分はこの単元で何を身に付けなければならないか」を考えさせ、見通しをもって学習を進めさせる。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン(アクティブ・ラーニング)の取組について

<主体性>

- 授業の最後に振り返りを書かせる。(A・L視点①)
 - ・ 生徒が自分自身の成長を感じたり、自分が学んだことの意味を理解したりすることで学ぶことへの主体性を高める。
- 身近な素材や興味を持つ場面設定で興味をもたせる。(A・L視点②)
 - ・ 教科書の学習内容を活用し、生徒にとって身近な場面や「おもしろそう」と興味を持つような場面を設定することにより生徒の主体性を高める。

- 生徒自らのアイデアを生かす。(A・L視点③)
 - ・ 新出文法を学習後にその文法を用いたオリジナル文を書かせ、それをインプットシートに採用する。そうすることで、学んだことを活用し、表現しようとする意欲を高める。
- 生徒自らに選択させる。(A・L視点④)
 - ・ ワークシートにはヒントありとヒントなしの2つのパターンを用意する。生徒は自らのレベルに合わせて選択し取り組むことで学力に合わせた学習ができる。
 - ・ 生徒がいつでも自分で活用できるよう、参考となる資料を用意しておく。
- 学んだことを振り返り、他者に伝えさせる。(A・L視点⑤)
 - ・ 学んだことを踏まえて、単元末にパフォーマンス課題に挑戦させる。スピーチやインタビューといった表現課題を設定することで、英語を用いて積極的に自分の意見を述べる力を育成する。

<協働性>

- 意図的にペアやグループで話し合いをさせる。(A・L視点⑥)
 - ・ 他の生徒の考えを聞かせたり、自分の考えを説明させたりすることで、一人では到達できなかった深い思考に到達することができ、生徒と生徒の協働性を高めることができる。また、疑問に感じたことを教師だけでなく、ほかの生徒に聞いたり教え合ったりすることで、生徒同士の関係性も高める。
- 自分の意見を発表する場を設ける。(A・L視点⑦)
 - ・ 自分の意見を発表したり、他の生徒の意見を聞いたりする場を多く設けることで、様々な生徒の意見を受け入れる雰囲気を作り、アイデアや発見を得て、さらに考えを広げさせる。

単元の目標と評価規準

<単元の目標>

- ・ 関係代名詞の文構造を理解するとともに、登場人物たちの行きたい場所とそこでしたいことに関するスピーチ文から要点を読み取る事ができる。
- ・ 他者へ紹介したい場所とそのおすすめポイントについて、聞き手が理解しやすいように順序立てて英文を書くことができる。

<評価規準>

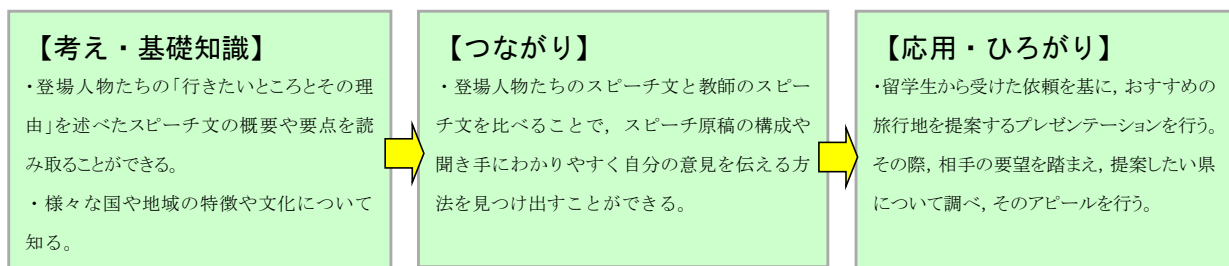
ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 辞書を活用するなどして、聞き手が理解しやすい英文を書こうとしている。 ・ 聞き手に内容が伝わるように大きな声ではっきりと自分の意見を述べている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介したい場所やそのおすすめポイントを文のつながりを考えて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとまりのある文章を読んで、その概要や要点を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係代名詞を用いた後置修飾の文構造を理解している。 ・ 相手を説得させるプレゼンテーションの内容と構成を理解している。

指導と評価の計画

○本単元で身に付けさせたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	C	B	A
情報収集力	英文の概要を読み取り、要点となるキーワードを抜き出すことができる。	英文の要点や概要を読み取り、その内容に関する日本語の質問に答えたり、YES/NO疑問文に答えたりすることができる。	英文の要点や概要を読み取り、Wh疑問文の質問に文章で答えたり、代名詞が指す内容を読み取ったりすることができる。
情報活用力	学習した内容やそのモデルを活用して、語句を替えるなどして文を書いたり、スピーチから要点を読み取ったりすることができる。	学習した内容やそのモデルを参考に与えられたテーマに沿って簡単な文を書いたり、スピーチから得た情報の要点を表にまとめたりすることができる。	学習した内容やそのモデルを参考に自分自身のことについてまとまりのある文章を書いたり、スピーチから得た情報を文章でまとめたりすることができる。
表現力	提案したい場所について、そのおすすめポイントとともに5文以上の英文で書くことができる。	提案したい場所とそのおすすめポイントについて、関係代名詞を用いた文を2文以上含み、10文以上で英文を書くことができる。	提案したい場所とそのおすすめポイントについて、関係代名詞を用いた文を2文以上含み、接続詞や代名詞などを用いて、つながりのある英文を10文以上書くことができる。

Lesson 5 “Places to Go, Things to Do” のICEモデル



(全15時間)

次	学習内容 (時数)	評 価				資質・能力 (評価方法)	
		関	表	理	知		評 価 規 準 (評価方法)
1	単元の見通しを持たせる	課題の設定					
	パフォーマンス課題について知る。				○	提案する上で、どのような力が必要か考えることができる。(ワークシート)	
2	関係代名詞 (主格)	情報の収集					
	関係代名詞 (主格) の文構造を理解する。		○		◎	関係代名詞を用いて、理想の家について説明をすることができる。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)
	関係代名詞 (目的格)				◎	関係代名詞を用いて、自分が行きたい国の説明文を書くことができる。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)

	関係代名詞まとめ		○	◎	関係代名詞を用いて、有名人の紹介文を3文以上で書くことができる。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)
Part 1						
	久美のスピーチを読み取る。			○	久美が行きたい国とその国の特徴を読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
Part 2						
	ラージのスピーチを読み取る。			○	ラージが行きたい国とその理由を読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
Part 3						
	メイリンのスピーチを読み取る。			○	メイリンが行きたい国とその国でしたいことを読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
Read						
	健のスピーチを読み取る。 (その1)			○	健が行きたい国とその理由(1つ目)を読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
	健のスピーチを読み取る。 (その2)			○	健がブラジルに行きたい理由(2つ目)を読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
	健のスピーチを読み取る。 (その3)			○	健がブラジルに行きたい理由(3つ目)を読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
3	プレゼンテーション準備	整理・分析				
	プレゼンテーションのための情報を集め、どの順番で提案するか考える。			○	提案する場所の情報を集め、提案に必要な情報を整理している。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)
4	パフォーマンス課題に向けて	まとめ, 表現				
	プレゼンテーションの下書きを書く。(その1) (本時)			○	提案する県とそのアピールポイントを英語で書くことができる。(ワークシート)	表現力 (ワークシート)
	プレゼンテーションの下書きを書く。(その2) (2)	○		◎	その県を提案する理由やアピールポイントについてさらに具体的な説明を加え、下書きを完成することができる。(行動観察, ワークシート)	表現力 (ワークシート)
プレゼンテーション						
	旅行のプレゼンテーションを行う。 パフォーマンス課題	○			相手に伝わるように、資料を効果的に提示し、声の大きさやスピードなどに注意しながら提案している。(発表)	表現力 (発表)

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	表現力
教科の評価規準	ある県について順序立てて10文以上の英文で書き、わかりやすくプレゼンテーションすることができる。

パフォーマンス課題のシナリオ

<p>1年生の時にいた留学生Ionaから次のような依頼がありました。</p> <p>“Next January, I will visit Japan with my friends. And I’m thinking about the plan to travel in Japan. So can you give me your idea?”</p> <p>そして、次のような条件がありました。</p> <ol style="list-style-type: none">① 参加人数はIona含めて4人。② 全員が楽しめる最高の思い出ができること。③ 日数は2泊～3泊程度（飛行機の機内泊は除く） <p>これらの条件を踏まえ、日本のどこかの県を紹介し、アピールするために、説得力のあるプレゼンテーションを行ってもらいます。また、そのプレゼンテーションをビデオに録り、Ionaに見てもらい、ひとつを選んでもらいたいと思います。</p> <p>プレゼンテーションを説得力あるものにするために、内容は、提案する県とそのアピールポイントを2～3点述べるとともに、関係代名詞を用いた文を2文以上含め、10文以上の英文を目指してください。</p>
--

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	提案したい場所とそこのおすすめポイントについて、関係代名詞を用いた文を2文以上含み、接続詞や代名詞などを用いて、つながりのある英文を10文以上書いている。
2 合格	提案したい場所とそこのおすすめポイントについて、関係代名詞を用いた文を2文以上含み、10文以上で英文を書いている。
1 乗り越えさせたい実態	提案したい場所について、そこのおすすめポイントとともに5文以上の英文で書いている。

本時の学習

(1) 本時の目標

- ・ 旅行の提案に向けて、提案する県とそのアピールポイントを関係代名詞を使った文を1文入れて、英語で書くことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・ 提案する県とそのアピールポイントを英語で書くことができる。(表現)

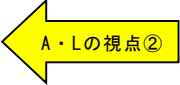
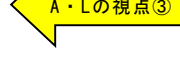
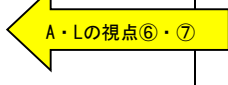
(3) 本時に身に付けさせたい資質・能力

- ・ 表現力

(4) 準備物

- ・ 教科書, ワークシート, スクリーン, パソコン, 辞書

(5) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 単元のゴールへの見通しをもつ。〔8分〕			
<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス課題について確認する。 教師によるパフォーマンス課題のモデルを見て、具体的な内容を確認する。 課題提示 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ゴールを確認することで、見通しを持たせる。 ◇ モデルを見せることで、場面を想像しやすくする。 <p style="text-align: center;">課題の設定</p>		
旅行の提案に向けて、提案する県とそのアピールポイントを関係代名詞を使った文を1文入れて、英語で書くことができる。			
2 プレゼンテーションの下書きを書く。〔10分〕			
<ul style="list-style-type: none"> 提案する県とそのアピールポイントを書き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 前時に集めた情報を基に、順序などに注意しながら英文を書かせる。 ◆ どう日本語で表せば良いか分からない部分には日本語でメモを書かせて、次の文を考えさせる。 ◆ 教師のモデルを参考に語句を替えるなどして文を書かせる。 		
3 班内で話し合う。〔12分〕			
<ul style="list-style-type: none"> 班内で下書きを交換し、よりよい表現方法を工夫することを目的として、話し合いをする。 <p style="text-align: center;">情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> 活用しやすい表現を生徒全員に紹介し、その活用方法を教える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 班内で下書きを交換し合い、コメントやアドバイスを記入させていく。 ◇ 教師は机間指導しながら、活用しやすい表現を集め、板書していく。 ◆ 友達の下書きを読んで、参考にしたい表現があった場合は、自分のワークシートに書き写させる。 ◇ ワークシートを早く交換し終えた班は、班内でアドバイスさせる。 ◇ 特に活用しやすい表現には、線を引くなどして目立たせる。 		
<活用しやすい英文例> ・ This is the prefecture which I want to introduce you. ・ I will introduce a prefecture that you will enjoy. ・ This prefecture is famous for its hot springs. ・ There are a lot of wonderful things. ・ You can enjoy making a toy there. ・ First, the scenery is beautiful.			
4 再度、下書きを書く。〔15分〕			
<ul style="list-style-type: none"> 再度、話し合いを基に下書きを書く。 <p style="text-align: center;">整理・分析 まとめ・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ クラスメイトからのアドバイスや活用しやすい表現を参考に、改めて自分が書いた下書きを推敲し、書き直させる。 ◆ 早く要約文を書けた生徒はスモールティーチャーとなり、つまづいている生徒の支援をさせる。 	提案する県とそのアピールポイントを英語で書くことができる。 (ワークシート)	表現力 (ワークシート)

5 本時を振り返り、次時につなげる。〔5分〕

- ・ 下書きを発表させる。
- ・ 分かったことと新たな疑問を記述する。

- ◇ 清書に向けての参考にさせる。
- ◇ 下書きを書く上で、参考になった表現や気をつけたことなどを書かせる。
- ◇ 次時の予告をする。

A・Lの視点①

新たな課題の設定に向けて

板書計画

Today's Goal

旅行の提案に向けて、提案する県とそのアピールポイントを英語で書くことができる。

条件

- ① 参加人数はIona含めて4人。
- ② 全員が楽しめる最高の思い出ができること。
- ③ 日数は2泊～3泊程度（飛行機の機内泊は除く）

※10文以上で原稿を書くこと。

※アピールポイントは2～3点。

※関係代名詞を用いた文を2文以上含める。

<活用しやすい英文例>

- ・ This is the prefecture which I want to introduce you.
- ・ I will introduce a prefecture that you will enjoy.
- ・ This prefecture is famous for its hot springs.
- ・ There are a lot of wonderful things.
- ・ You can enjoy making a toy there.
- ・ First, the scenery is beautiful.

検証

- 平成28年度2学期期末テスト問題の結果を分析する。
- 平成28年度標準学力調査の結果を分析する。